

2-1. 写真(比較的新しいもの)

銀塩紙焼き写真・ネガ

デジタル写真(ハードディスク・各種メモ리카ード、各種記録媒体(ディスクなど)・各種磁気記録テープ、その他)

(材料):紙、プラスチックフィルム、ゼラチン、銀等、シリコンチップ
金属、プラスチック等

※一部「第3章 3-14 写真」の項を参照

1. 災害発生時における被害の状況

写真といっても、ここでは所有者自身もしくは身近なプライベート写真を対象とする。これらは、「もの」としての形のある銀塩写真(印画紙・ネガ)やデジタルデータからの紙出力、さらにはデータの形で保存・記録されているハードディスクやフラッシュメモリ、ディスク類(CD、DVD、BD、MDなど)、テープ(VHS・ β ・DVなど)などにまで及ぶ。これらのデータが存在するかどうかを知っているのも、またそれを残す努力をするかどうかは、所有者の考え次第であるが、こうした個人の記録もかけがえのないものであるという認識は、東日本大震災で再確認された。

□水害: 銀塩写真(印画紙・ネガ)やデジタルデータから紙出力されたものは、最悪の場合、流出して失われる可能性がある。今回の津波被害では、流出したものを所有者自身が後日探し歩いたり、自衛隊やボランティアなどによって集められたりして所有者の元に戻されたものもあった。流出を免れても、銀塩写真(印画紙・ネガ)は、水に長期間浸かることによって、画像層で

あるゼラチン膜自体と、そのなかの画像銀や色素が劣化して画像そのものが消えたり変退色してイメージが劣化したりする可能性が高い(図1)。

また、デジタル出力されたものは、画像を形成する色素や紙の強度は銀塩写真などに比べて弱く、水に浸かった時点で失われたり、長時間の水浸には耐えられないと思われる。さらに、夏場などの高温で水浸状態が続けば劣化がより促進されるだけでなく、ゼラチン層自体が腐ったり細菌やカビなど生物被害を受ける可能性が高くなる。洪水や津波の場合は、海水の塩分や泥などさまざまなものが混じっているため



図1 長時間海水に浸かって膜面が劣化したプリントなど

違った劣化状況が生じる。

さらに、水浸による被害だけでなく、救出前や処置前にそれらが乾燥してしまうと、写真が貼り付いたり、変形するなどさらに被害が拡大する。急激に乾燥すると膜面が剥離する可能性もある。泥などの不純物が付着した状態で乾燥すると、複合的な劣化を引き起こす。

こうした被害の状況は、どのように収納されていたかで大きく違ってくる。箱に収められていたか、箱が密閉型であったか、アルバムやスリーブ、封筒などの包材の形式や材質などによっても影響される(図2)。しかし、収納していない場合、散逸することが多いと考えられる。

写真のデジタルデータを電氣的に記録・保存しているハードディスク、フラッシュメモリなどは、流出うんぬんという以前に、ハードウェアが水に濡

れた時点でダメージを受ける可能性がある。また、CDやDVDなどのディスク類やテープ類では、物理的な損傷を被っていることがある。

◇地震：収納場所からの落下、ほかの落下物や崩壊した建物によって物理的な損傷(破れ、変形、擦り傷など)が生じる。建物が崩壊・損壊して劣悪な保管環境(高温多湿、虫害など)に長期間放置されると、さまざまな劣化が生じる。こうした被害の程度は、前述のように収納の形態、接しているものの素材や状態によっても大きな差が生じる。地震によって建物が被害を受け、雨漏りによる水損、地震時に火災に合う可能性もある。

◎火災：完全に焼失してしまうことが多く、燃え残っても修理は難しい。印画紙やフィルムは熱によって焼失、焦げ、熱変形、変退色などが生じ、直接熱にさらされなくとも煤の付着する



図2 劣化が激しい救出された簡易アルバム